

社会資本総合整備計画 事後評価書 （案）

計画の名称		安全・安心で快適な公園づくり（防災・安全）											
計画の期間		令和2年度 ～ 令和6年度（5年間）				交付対象		神戸市					
計画の目標		長寿命化計画や都市公園バリアフリー整備方針等に基づき、老朽化した公園施設の改築・更新や、園路広場・便所等のバリアフリー化を進める。 それにより、誰もが安全で安心して利用できる快適な公園の実現を目指すとともに、公園施設に係るライフサイクルコストの縮減を図る。 ※上位計画における位置づけ：「神戸市緑の基本計画」第7章施策の展開 2.まちのゾーン 方針2-②公園等の安全性の向上とバリアフリー化											
計画の成果目標（定量的指標）													
① 概ね2ha未満の身近な公園の園路広場のバリアフリー化率を54%（R2当初）から59%（R6末）にする。													
② 概ね2ha以上の公園の便所のバリアフリー化率を46%（R2当初）から60%（R6末）にする。													
③ 公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化や劣化により更新が必要な遊具等について20公園で更新を進める。													
定量的指標の定義及び算定式									定量的指標の現況値及び目標値			備考	
									当初現況値 （R2当初）	中間目標値 （R4末）	最終目標値 （R6末）		
①（都市公園のバリアフリー化適合率（園路広場））＝（バリアフリー基準に適合している公園数）／（神戸市内の公園数）×100 ※バリアフリー適合除外公園									54%	-	59%		
②（都市公園のバリアフリー化適合率（便所））＝（バリアフリー基準に適合している公園数）／（神戸市内の公園数）×100 ※バリアフリー適合除外公園									46%	-	60%		
③（都市公園の改築・更新の達成率（遊具等））＝（改築・更新を実施した公園数）／（改築・更新が必要となる公園数）×100									0%	60%	100%		
全体事業費		合計 （A+B+C）	890百万円	A	890百万円	B	0	C	0	効果促進事業費の割合 C／（A+B+C）		0.00%	

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期												
事後評価の実施体制								事後評価の実施時期				
								2025/ /				
令和7年度 神戸市建設事業外部評価委員会								公表の方法				
								神戸市ホームページに記載				

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A1 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 （事業箇所）		事業内容 （延長・面積等）	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										R2	R3	R4	R5	R6		
A-1	公園	一般	神戸市	直接	神戸市	都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業		公園における園路広場のバリアフリー化等	神戸市						278	
A-2	公園	一般	神戸市	直接	神戸市	公園施設長寿命化対策支援事業		公園施設の改築・更新	神戸市						38	
A-3	公園	一般	神戸市	直接	神戸市	公園施設長寿命化計画策定調査		長寿命化計画改訂のための調査業務	神戸市						86	
A-4	公園	一般	神戸市	直接	神戸市	公園施設長寿命化対策支援事業（ユニバー記念競技場）		ユニバー記念競技場舗装改修	神戸市						534	
小計														936		

B 関連社会資本整備事業（該当なし）

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容 （延長・面積等）	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										R2	R3	R4	R5	R6		
小計																

C 効果促進事業（該当なし）

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	備考
										R2	R3	R4	R5	R6		
小計																

番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況					
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		・都市公園の園路広場や便所について、継続してバリアフリー化を行った結果、バリアフリー化の対象公園の半数以上において誰もが安全安心に利用できる環境が整った。			
II 定量的指標の達成状況	指標①： 概ね2ha未満の身近な公園の園路広場のバリアフリー化率を54%（R2当初）から59%（R6末）にする。	最終目標値	59%	目標値	・目標を達成した
		最終実績値	60%		
	指標②： 概ね2ha以上の公園の便所のバリアフリー化率を46%（R2当初）から60%（R6末）にする。	最終目標値	60%	目標値と実績値に差が出た要因	・便所の建設費高騰やバリアフリー基準の変更により、整備費が増大したため目標には達していないが、引き続き取り組みを進めR7年度中に達成予定（3公園）。
		最終実績値	56%		
	指標③： 公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化や劣化により更新が必要な遊具等について20公園で更新を進める。	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	令和3年度より、国費の措置状況がより優位な「長寿命化計画に基づく公園施設の改築・更新（防災・安全）」に集約化したため。
		最終実績値	35%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 （必要に応じて記述）		・バリアフリー化と合わせて、他の公園施設の改修も実施することで、公園全体のリニューアルを実施し、利用者に安全で魅力のある空間を提供することができた。			
3. 特記事項（今後の方針等）					
・今回の整備により、整備計画に定める園路広場のバリアフリー化率は60%と目標を達成した。 ・整備計画に定める便所のバリアフリー化率60%については未達成のため、継続的に公園施設バリアフリー化の推進に取り組んでいく。（R7年度中に達成予定）					